

子どもの健康づくり連携事業〈専門医の派遣〉実践例

中学校⑥

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「みんなで考えたい
からだところが大人になるということ」
- 2 対 象 全校生、教職員
- 3 専門医 太田 信彦 医師
(ゆめクリニック)
- 4 実施月 10 月
- 5 内 容(キーワード)
性に対する正しい知識と男女の理解
思春期の不安や悩みの解決
生命誕生の奇跡、自分も相手も大切に



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*女子生徒が生理痛を自分だけでがまんする場面があった。専門医の先生のお言葉や表現にはよどみがなく、生徒たちは身体の仕組みや必ずおとずれる身体の変化について、しっかりと聴いていた。

*「バウンダリー(境界線)を知る」という内容で、相手と自分のお互いを大切にできるようにするための接し方を分かりやすく教えていただいた。

②保健教育における

校内連携について

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*特別活動で、「心とからだの学習」(年1時間)、「薬物乱用防止教室、または不審者対応訓練」(年1時間)を実施している。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

(○)とても有効だった

()有効だった

()課題が残った

<その理由>

*「山形県性教育チーム事業」から講師選定を行った。先生の中学目線での内容、スライドに、経験の豊富さを感じた。

直接、お会いして打合せをさせていただいたおかげで、テーマや生徒の実態について、学校側からもよくお伝えできた。

〔受講者の感想など〕

○自分になりたいなくても体は大人になっていくことがわかったし、男女それぞれの「らしさ」があることがわかった。私が生きているのも、お母さんやお父さん、病院の方々のおかげなのだなあと、今までよりさらに感謝の気持ちが強くなった。また、一人一人のバウンダリーがあるので、相手のことを、今よりさらに考えて生活したい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

○保健体育、学級活動

